

阪神・淡路大震災 消防活動の記録

兵庫県南部地震 1995年1月17日午前5時46分52秒



宝塚市消防本部・宝塚市消防団

阪神・淡路大震災 消防活動の記録



宝塚市消防本部・宝塚市消防団



発刊のことば

平成7年1月17日午前5時46分52秒、淡路島から阪神地区にかけて直下型の大地震が襲い、全国を震撼させました。淡路島北部を震源とするマグニチュード7.2の兵庫県南部地震です。

宝塚市内でも一部地域にあっては、震度7の激震を記録し、その被害は未曾有のものとなりました。宝塚市では、死者118名、家屋の全半壊（一部損壊を含む。）が27,154棟、41,177世帯の被害を受け、火災により4棟が焼失するという大惨事となりました。

ここに改めて、痛ましくも犠牲になられた方々に心からの哀悼の誠をささげますと共に、被害にあわれた皆様に心からお見舞い申し上げます。

今回の地震は、私達消防職・団員にとって、その被災規模は余りにも大き過ぎ、現行の消防力では自ずと限界があることを思い知らされた自然災害でもありました。

このような状況の中で、市民相互の共助体制、地域の連携などによる自主的な救助、救援活動の展開はもとより消防、行政、警察、自衛隊をはじめとした不眠不休の活動があればこそ、被害の拡大を防止し得たものと確信いたしております。

今回の震災で得た多くの体験と貴重な教訓を風化させることなく、今後の消防行政に反映すべく、この2年近く、本市におきましては、「災害に強い街づくり」を最重点課題として、防災対策の基本となる地域防災計画の抜本的な見直しを始め、自主防災組織の育成推進などあらゆる分野での防災諸施策に取り組んでいるところであります。

この阪神淡路大震災消防活動の記録誌は、消防活動の記録を後世に残し、将来も起こることが予想される都市直下型地震に対処するための資料になればと、震災2周年を期して作成したものです、不十分な点多々あるかと存じますが、今後の震災対策の参考になれば幸いと考えております。

おわりに、この度の震災活動に御協力、御支援いただきました各関係機関の皆様にご心からお礼を申し上げますとともに、本誌の作成にあたり、御協力賜りました多くの皆様に厚くお礼申し上げます。

平成9年1月

宝塚市消防長
金岡信重



発刊によせて

自然災害の少ない平和な街、緑多い閑静な住宅都市そして音楽と観光の街宝塚。誰もがこの平和な地に大きな地震はないものとしたかをくくっていたところでは。

平成7年1月17日午前5時46分、この平和な地に直下型の地震が襲いました。そして、この自然の猛威は、多くの尊い生命、財産を一瞬のうちに奪う結果となりました。防災を担う消防職・団員は、汗と涙を堪えながら必死に火災防ぎよ、救助、救急活動に当たりました。

しかし、震度7を記録した地震の破壊力は想像を絶するものであり、災害活動は困難を極めました。

我々の持てる力の限界を思い知らされ、自然の猛威に対しては非力さを認めざるを得ない結果となりました。

この結果から我々は多くの教訓を得ることができ、また今後の防災対策の見直しの必要性も教えてくれました。

あの忌まわしい大震災から2年近くが経過しました。街のあちこちで家の新築が目立つようになり復興の足音が聞こえてくるようになりましたが、まだまだ不自由な生活をされているひとが数多くおられます。

人は忘れるが故に新しきものを得ると言われますが、この震災で得た教訓は何年たっても、街が美しく復興しようともけっして忘れてはなりません。

我々の悲痛なる災害活動の結果をこの記録誌に記し、この歴史的な災害体験から得た教訓を我々消防関係者の後輩達にしっかりと伝承していかなければならないという熱い思いで発刊の運びとなったものです。

平成9年1月

宝塚市消防団長

塗 家 啓 二



発刊にあたって

平成7年1月17日午前5時46分、本市を過去に例のない未曾有の大地震が襲いました。この地震により、多くの尊い生命と貴重な財産を瞬時に失うという大惨事になりました。

この災害に際し、消防職、団員はもとより地域住民が一体となり総力をあげての救助・救出・消火活動が展開されました。正に不眠不休の活動であったと思います。しかしながら全市域に亘って同時に発生する大規模災害には訓練で鍛えあげた消防の精鋭達の必死の活動をもってしても、おのずと限界があることを思い知らされたのも、また事実であったと思います。

そこで、この震災を教訓として大規模災害に対応するため、消防本部では、自分たちの地域は自分たちで守るという自立意識を高めるため全市的に「自主防災会」の組織づくりを手がけられ、消防と地域住民が一帯となった防災行政を推進されていると聞きおよんでおります。誠に時を得た対応であり、その成果に期待をいたしたいと思います。

こうした状況下にあって、この度の震災時の消防活動の全てを記録誌にまとめられるとのことであり、当協会といたしましても趣旨に賛同しご協力をさせていただいたところであります。

今後とも消防行政への支援と協力を惜しまず「災害のない明るい街づくり」を推進するため努力させていただきます。

最後に消防職、団員の皆様のみすますのご精励を願うと共にこの活動記録簿の発刊を機により高い次元の発展を期待いたします。

平成9年1月

宝塚防火協会長

荒木 義 男

目次

■ 第1部——阪神・淡路大震災の概要

第1章	震災前の宝塚市の状況	
	1. 位置と面積	19
	2. 人口	19
	3. 地形、地盤の特性	19
	4. 都市生活の形態	23
第2章	地震動の概要	
	1. 地震の諸元	24
	2. 各地の震度	25
	3. 余震と地震観測	26
	4. 地震の特徴	26
	5. 参考	27
第3章	被害の状況	
	1. 総論	28
	2. 宝塚市の人的被害状況	(1) 死者 28
		(2) 負傷者 28
	3. 宝塚市の物的被害状況	(1) 建物 28
		(2) 交通機関 32
		(3) ライフライン 33
		(4) 産業 33
		(5) 文化財 34
第4章	消防機関の対応	
	1. 消防活動の概要	(1) 初動時(覚知)の概要 35
		(2) 火災防御の概要 35
		(3) 救助活動の概要 35
		(4) 救急活動の概要 36
		(5) 情報活動の概要 36
	2. 消防体制	(1) 人員、車両 37
		(2) 組織 38
		(3) 予算 38
		(4) 基本的な消防力 39
		(5) 消防水利状況 41
	3. 消防活動	(1) 震災当日の消防体制 41
		(2) 1・17消防活動ドキュメント 42
		(3) 消防団の活動 48
	4. 他都市への応援状況	50
	5. 火災事例	51
	6. 倒壊建物状況	55
	7. 家屋調査の実施	55
	8. 避難勧告	56



第5章 関係機関の対応

1. 関係機関の震災関連対応 ————— 57
2. 大震災における職員の行動調査集計結果 ————— 65

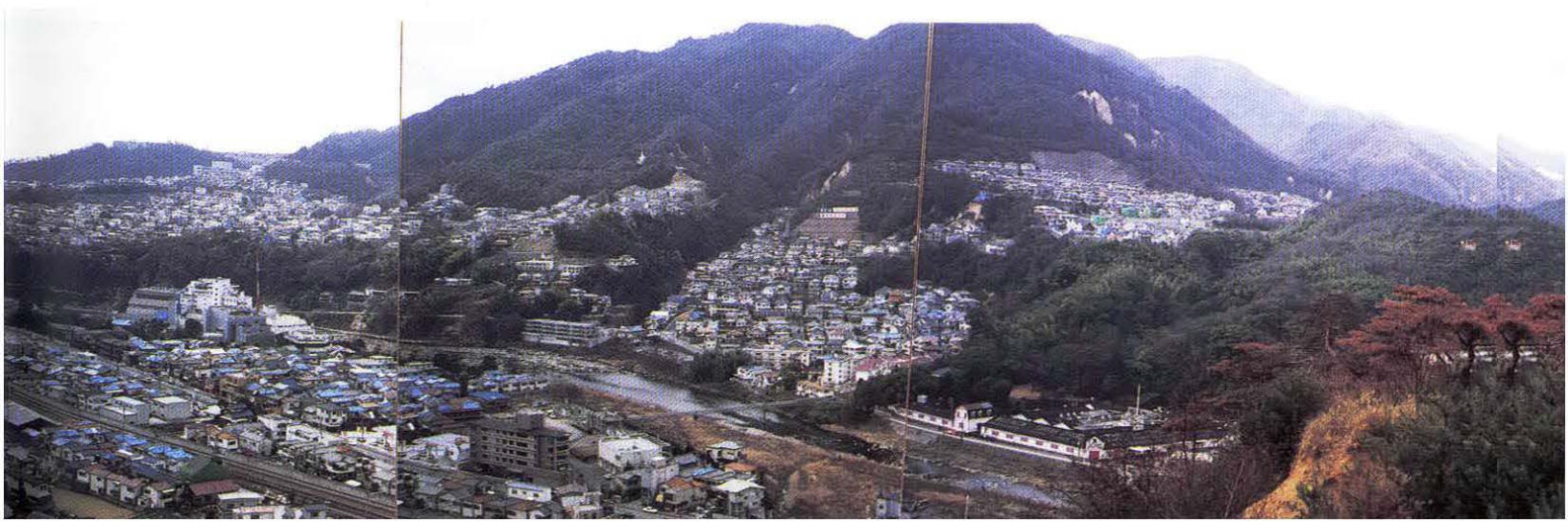
■第2部——— 職員の震災活動の手記

1. 「パニック対応できず！」 宝塚市西消防署 消防士長 藤原 雅広 —68
2. 「新任にして大体験」 宝塚市西消防署 消防士 的場 吉彦 —69
3. 「我が家の全壊を顧みず防災活動」 宝塚市西消防署 消防司令補 植田 省三 —70
4. 「憎むべき大震災」 宝塚市西消防署 消防士長 宮本 政信 —71
5. 「家屋被害調査に従事して」 宝塚市西消防署 消防司令長 吉居 五雄 —72
6. 「紙コップ1杯の水」 宝塚市東消防署 消防司令補 福貴 正文 —73
7. 「歯痒い救助活動」 宝塚市東消防署 消防司令補 芝 雅視 —74
8. 「感動を1枚の写真に」 宝塚市東消防署 消防司令補 宇陀 公正 —76
9. 「出勤する前に救出を求められ」 宝塚市西消防署 消防士長 山田 健一 —77
10. 「悪夢！！終わりなき小隊活動」 宝塚市東消防署 消防司令補 遠藤 聰 —78
11. 「防災の主役は市民」 宝塚市西消防署 消防司令補 藏野 正夫 —79
12. 「救える命を救うためには」 宝塚市西消防署 消防司令補 山田 茂樹 —80
13. 「頼もしい市民の顔・顔 顔…」 宝塚市西消防署 消防司令補 安谷 智治 —82
14. 「女子大生、救出」 宝塚市西消防署 消防司令補 上田 秋夫 —83
15. 「市民の罵声を力に！！」 宝塚市西消防署 消防司令補 石塚 京一 —84
16. 「突然、目の前が真っ白に！！」 宝塚市東消防署 消防司令補 梶本 和夫 —85
17. 「阪神大震災に思う」 宝塚市西消防署 消防司令補 西 和光 —87
18. 「悲痛の声119番」 宝塚市消防本部 消防司令補 藪内 和雄 —88
19. 「涙をこらえて防災活動」 宝塚市消防団 消防団副団長 古東 宏之 —89
20. 「遺体の温もりに無念の思い」 宝塚市消防団 波豆分団長 福本 真一 —91
21. 「必死の思いでエール」 宝塚市消防本部 消防司令補 石橋 豊 —92
22. 「命の叫び！！」 宝塚市西消防署 消防司令補 市場 通行 —94

■第3部——— 地震についての提言

地域防災計画の課題

- 阪神大震災の教訓を踏まえて考える 神戸大学工学部教授 工学博士 室崎 益輝 —97





全壊した木造瓦葺きアパート

▼被害を受けた宝塚歌劇大劇場の一部



▲脱線し傾いた阪急電車

花のみちの被害状況▼





破壊された中国自動車道の橋脚▲

▼木造二階建トタン葺アパートの倒壊状況



▲落下、散乱した書類（事業所のオフィス）



▲全壊した2階建駐車場

大きな被害を受けた小浜宿の旧家▼



▼崩壊した石垣



▲住宅地の被害状況



▲倒壊した国の重要文化財中筋八幡神社



倒壊をまぬがれた住宅▲

▼全焼した住宅



1・2階部分が崩れ傾いたビル▶



◀地割れを起こした道路

▼壊滅した寺院

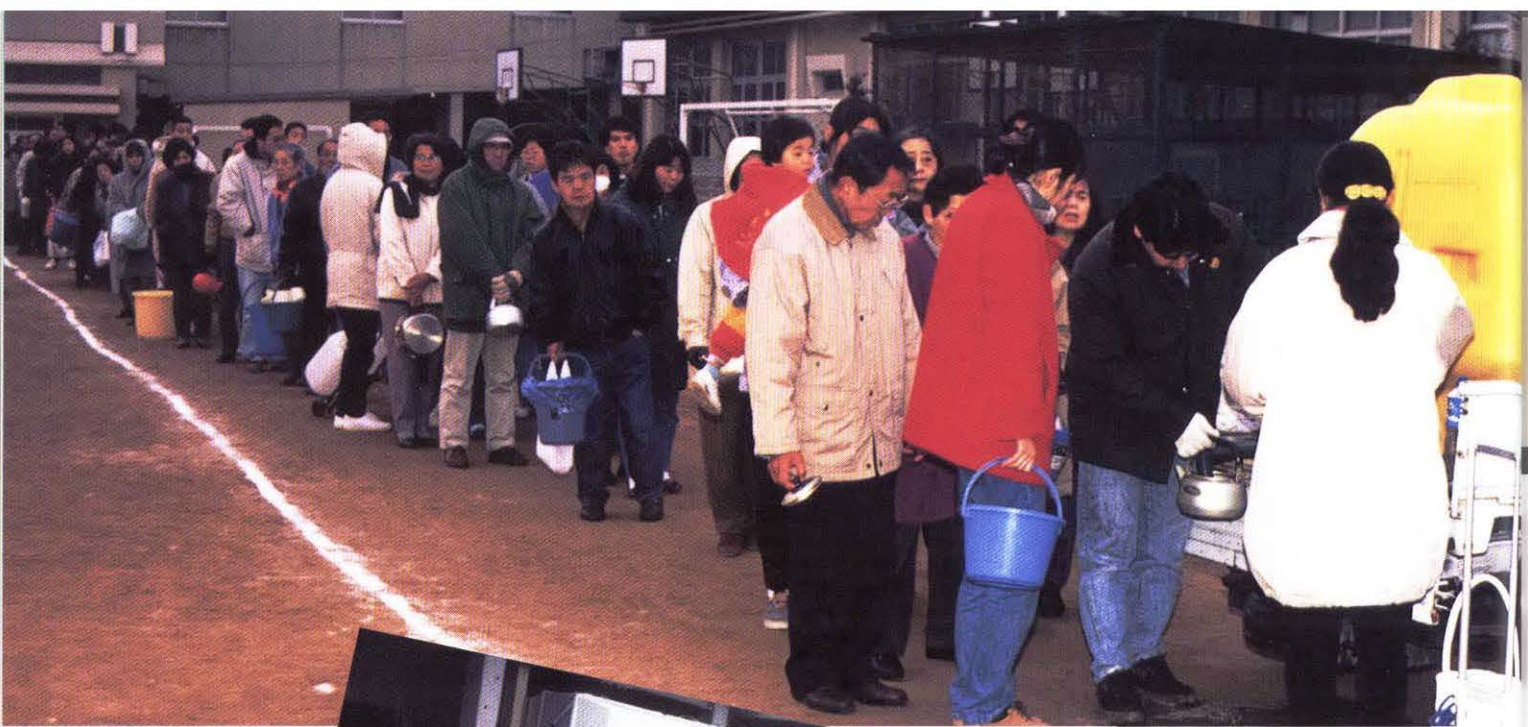


▼屋根が落下した寺院





▲全壊し解体中の7階建マンション



▲給水車に並ぶ人々



避難所での自炊風景

▼びっしりと立ち並ぶ仮設住宅

